

保育士に求められる資質能力に関する調査研究

江田 美代子

An Investigation on the Characteristics and Aptitude Required to Be a Nursery School Teacher

Miyoko EDA

はじめに

宮崎女子短期大学は、毎年、保育士及び幼稚園教諭を県内は勿論県外まで保育所（園）や幼稚園に送りだしている。つまり、宮崎女子短期大学は、保育士資格を取得させ、卒業と同時に保育現場で活躍しうる実力を備え、専門職として社会に貢献できる人材を育成するという使命を有するのである。

しかし、保育現場の管理的な職にある人達からは、たまに、「長続きしないで退職してしまう。」とか「保育に対する理解が浅く、自分なりの保育士観がない。」「自主的研修で専門性を高めようとする努力を回避する傾向がある。」等の声を聴くことがある。本学を卒業した学生が、保育現場での勤務態度や保育士としての資質能力の発揮如何が、結果的には、本学の評価にも影響を及ぼすと考える。

保育所（園）では、乳幼児の最善の利益の向上のために、開かれた保育所（園）づくりを目指し、利用者へのサービス内容を充実させ、養護と教育としての内容を充実させる努力を傾注しているのである。

そこで、保育士を養成して保育現場に多数の学生を送り出す本学にとっては、保育現場のニーズに応えるための、従来の専門に関する授業をなお一層充実すると共に保育士に求められる資質能力を育成することが喫緊の課題と考える。つまり、上記のような状況の中では、「今、保育現場で求められる保育士の資質能力は何か」を明確にして、明日からの本学の授業の中で指導法の工夫改善に努め、それらの資質能力を育成していかねばならないと考える。

「資質能力」については、「資質」と「能力」を分けなくて、「資質能力」を一体的にとらえて論述していくことにする。「資質能力」の観点としては、①保育士に求められる資質能力②保育現場の実践的指導に期待される力量③保育士として必要な生きる力④保育士に社会人として求められる人格⑤豊かな人間性の内容⑥職務遂行に必要な資質能力⑦保育士に求められる知識・技能⑧保育実習時に求められる指導力⑨初任の保育士に求められる資質能力等で考察することにした。

本調査報告書の研究テーマ「保育士に求められる資質能力に関する調査研究」は、保育現場の所（園）長や主任保育士、保育科の学生が、「保育士の資質能力」をどのようにとらえているかを明らかにする試みである。従来、「教師論」「保育士論」では、教師や保育士とは如何にあるべきかという視点からの論述がほとんどであるので、本調査研究は、視点をかえ、「管理職としての所（園）

長が考える保育士の資質能力」及び「保育現場で保育に当たっている指導的立場の主任保育士が考える資質能力」、「保育科学生が考えている資質能力」という立場から論を進めたものである。

基礎研究としてのこのささやかな調査研究が、本学の保育科学生を対象にした授業における指導法の工夫改善に還元することが可能であればとの願いを込めて論を進めたい。

1 保育士に求められる資質能力に関する調査研究の進め方

(1) 調査研究の概要

調査研究のテーマ「保育士に求められる資質能力についての調査研究」

- ① 時代、社会情勢の推移と共に、教師像、保育士像についての見方、考え方は変化していると考える。
- ② 現時点における保育現場の保育関係者の保育士の資質能力に関する見方、考え方はこのアンケートに集約されるものと期待できる。
- ③ 今回の調査は、項目を10グループに分類し、それぞれの項目で、保育所（園）長、主任保育士、保育科学生がどのように資質能力を考えているかを把握する。
- ④ アンケートの結果から保育所（園）長としての立場と直接保育に携わる主任保育士の立場、即ち、保育現場の管理的立場の人と、保育科学生の立場から、資質能力についての二つに分類して考察を加える。
- ⑤ 保育所（園）長、主任保育士に対するアンケートの最後の設問では、学生の実習参加の態度等について、保育現場からの感想の自由記述を依頼し、現場の生の声をとらえることにする。
- ⑥ この調査によって、保育現場が求める保育士像が明らかになると、本学の保育所（園）の実習の参加について、今後の授業改善の観点や実習前指導の在り方のポイントが明らかになると考える。

(2) 調査の目的

本調査研究は、「保育士の資質能力」を視座にすえて、次の2点を明らかにしたものである。

ア 宮崎県下の保育現場が希求する保育士の資質能力を明らかにする。

イ 今後の授業や実習前指導の充実のために、宮崎県下の保育現場の本学の実習生に対する期待や評価を明らかにする。

(3) 調査の方法

本調査は、宮崎県内の公立、私立の保育所（園）の所（園）長、主任保育士及び本学の保育科1，2年生に対して「保育士に求められる資質能力」に関するニーズ調査、意識調査を書面（学生以外は郵送）で行い、本学の保育科学生への教育指導における基礎資料を得るものである。

(4) 調査対象

ア 宮崎県内の、地域的に偏らないように、公立、私立の保育所（園）長、主任保育士に対して無作為に抽出して調査した。

イ 本学の保育科1、2年生全員（当日の欠席者は省く）に対して調査した。

調査対象	人数(名)	回収率(%)
保育所(園)長、主任保育士	152	83.3
保育科1年生	195	100
保育科2年生	185	100

(5) 調査項目

- ① 保育士に求められる資質能力
- ② 保育現場の実践的指導に期待される力量
- ③ 保育士として必要な生きる力
- ④ 保育士が社会人として特に身につけておくべきこと
- ⑤ 豊かな人間性に関する内容として特に求められる資質能力
- ⑥ 保育士としての職務遂行に必要な資質能力
- ⑦ 保育に関する愛着、誇り、一体感の中で求められる資質能力
- ⑧ 保育に関する養護、教育等の知識及び技能の中で求められる資質能力
- ⑨ 保育実習生に求められる実践的指導力の内容
- ⑩ 初任の保育士に特に求められる資質能力の観点
- ⑪ 本学学生の実習についての意見及び感想

(6) 調査期日

保育科学生 平成19年7月
 保育所(園)長・主任保育士 平成19年8月

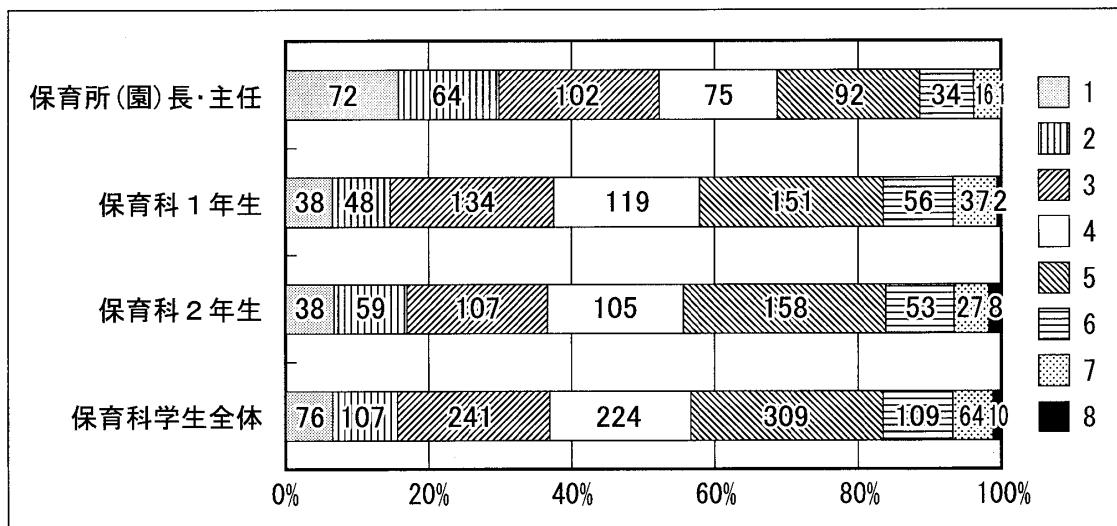
(7) 複数選択の場合は、延べ回答数を100パーセントとして集計した。

2 調査の結果

(1) 特に保育士に求められる資質能力を次の中から3つ選んでください。

- 1 保育士としての使命感
- 2 保育への情熱
- 3 子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力
- 4 子どもの成長・発達に関する理解
- 5 子どもへの愛情
- 6 保育内容に関する専門的知識
- 7 豊かな教養
- 8 その他

図 1



【考 察】

特に保育士に求められる資質能力として、保育所(園)長・主任保育士は、一番目に「3 子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力」(22%)、二番目に「5 子どもへの愛情」(20%)、三番目に「4 子どもの成長・発達に関する理解」(16%)、四番目に「1 保育士としての使命感」(16%)を上げている。

保育科の学生全体は、一番目に「5 子どもへの愛情」(27%)、二番目に「3 子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力」(21%)、三番目に「4 子どもの成長・発達に関する理解」(20%)を上げている。保育所(園)長・主任保育士が、四番目に上げている「1 保育士としての使命感」は、保育科全体では、六番目で7%に過ぎない。また、保育科1, 2年生においても同じく7%で、「保育士としての使命感」としての意識は高いとは言えない。

保育科の学生を学年で比較すると、特記すべき大差は認められない。

その他で記述があった「心と身体の健全さ」、「生命を預かる責任感」、「明るい性格」「笑顔」についても大切であると考えられる。

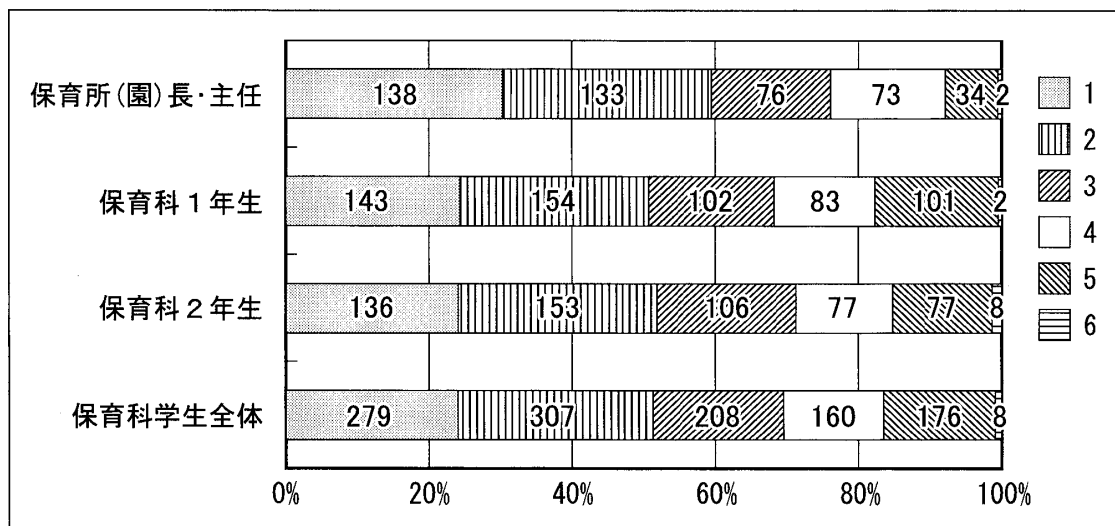
保育現場では、「児童理解」を保育士の資質能力として最も望んでいることがわかる
(その他)

保育所(園)長・主任保育士	1名 (0.2%)	・心と身体の健全さ
保育科1年生	2名 (0.3%)	・生命を預かる責任感
保育科2年生	8名 (1.4%)	・明るい性格 ・笑顔

(2) 保育現場の実践的指導に期待される力量を次の中から3つ選んでください。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1 保育内容に関する事。 | 4 クラス経営に関する事 |
| 2 基本的な生活習慣に関する事。 | 5 行事等に関する事 |
| 3 保健衛生に関する事。 | 6 その他 |

図 II



【考 察】

保育現場の実践的指導に期待される力量として、保育所(園)長・主任保育士は、一番目に「1 保育内容に関すること」(30%)、二番目に「2 基本的生活習慣に関すること」(29%)、三番目に「3 保健衛生に関すること」(17%)、近差で「4 クラス経営に関すること」(16%)を四番目に上げている。

保育科学生全体は、一番目に「2 基本的生活習慣に関すること」(27%)、二番目に「1 保育内容に関すること」(24%)、三番目に「3 保健衛生に関すること」(18%)である。保育科学生は、学年での順番の差はなく、数値にわずかの差が見られる程度である。全体的に見ると、日常的に必要な「基本的な生活習慣」「保育内容」「保健衛生」に関することの三つを選んでおり、「4 クラス経営に関すること」(14%)は「5 行事等に関すること」(16%)の次の五番目に上げている。

保育実習においては、クラス経営の内容までは至らないが、保育所(園)長、主任保育士が四番目に上げていることから、実際の現場では「5 行事等に関すること」より重要な内容と考える。宮崎県教育委員会がプラン策定の求める教師像として、マネジメント力を上げていることから、保育科学生の認識を高めると共に、「4 クラス経営に関すること」の資質能力の育成も大切であるとする。

保育科学生が、保育内容に精通するためには、日常の授業等において、常に、「保育所保育指針」を手元において熟読させることを、是非導入していかねばならないと考える。その他においては、「保護者との関わり」「危機管理」が上げられている。

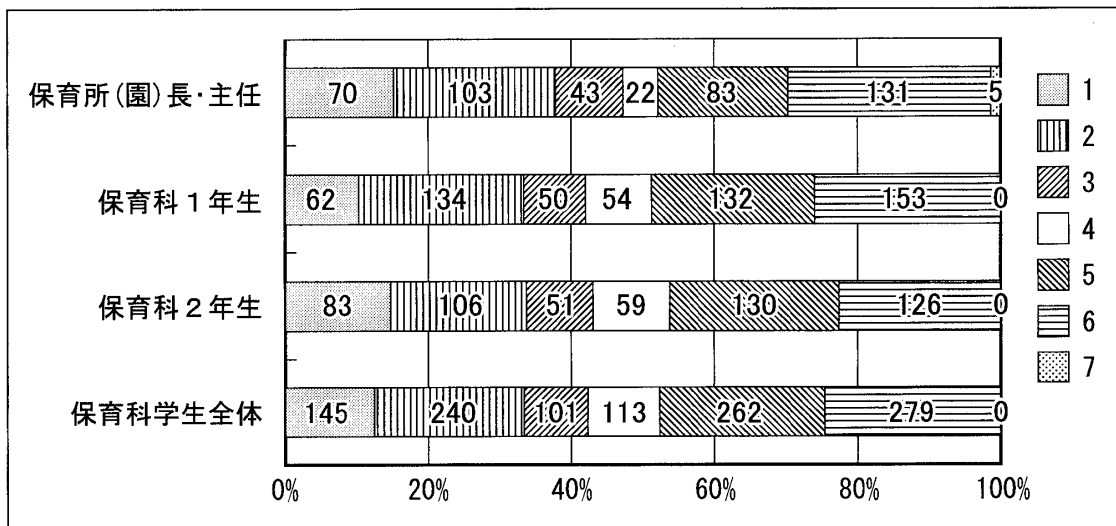
〈その他〉

保育所(園)長・保育士	2名(0.4%)	・保護者との関わり
保育科1年生	2名(0.3%)	・保護者への対応
保育科2年生	6名(1.0%)	・保護者への対応 ・危機管理

(3) 保育士の生きる力として、特に必要なことを次の中から3つ選んでください。

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 何でも挑戦する情熱 | 5 豊かな創造力 |
| 2 自主的に行動できる力 | 6 自分の行動への責任感 |
| 3 じっくり考えて行動できる力 | 7 その他 |
| 4 鋭い豊かな人権感覚 | |

図Ⅲ



【考 察】

保育士の生きる力として必要なこととして、保育所(園)長・主任保育士は、一番目に「6 自分の行動への責任感」(29%)、二番目に「2 自主的に行動できる力」(23%)、三番目に「5 豊かな創造力」(18%)を上げている。この項目では、「無責任で指示待ちの若者」に対する厳しい姿勢がくみ取れる。

保育科学生全体は、割合は少し低いが、保育所(園)長・主任保育士と同じく、一番目に「6 自分の行動への責任感」(24%)を上げているが、二番目は「5 豊かな創造力」(23%)、三番目は「2 自主的に行動できる力」(21%)である。学年を比較すると、二年生は、一番目に「5 豊かな創造力」(23%)を上げ、4名の差で二番目は「6 自分の行動への責任感」(23%)である。一年生は、保育所(園)長・主任保育士と同じ順番である。割合で見ると大差はない。

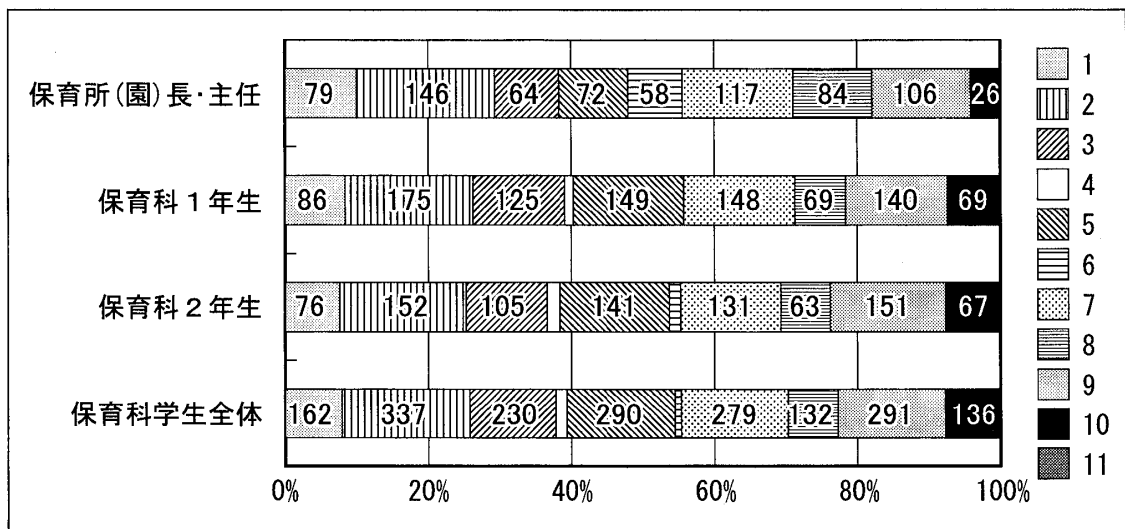
「1 何でも挑戦する情熱」は、保育所(園)長・主任保育士(15%)、保育科一年生(11%)、二年生(15%)もそれぞれ四番目に上げ、宮崎県教育委員会がプラン策定の求める教師像として「愛情と情熱」を上げていることから、うなずけることである。

その他については、保育所(園)長・主任保育士の5名(1%)が「人間関係で和が保てること」「礼節」「豊かな感性と人間性」を上げている。

(4) 保育士が社会人として特に身につけるよう期待されることを、次の中から3つ選んでください。

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 1 時間を守ること | 7 思いやりの心を常にもつこと |
| 2 責任感をもつこと | 8 保育所（園）の一員である自覚をもつこと |
| 3 信用を失わないこと | 9 報告、連絡、相談を忘れないこと |
| 4 保護者の評判を高めること | 10 保護者との出会い、研修の機会等を活用すること |
| 5 子どもの手本になること | 11 その他 |
| 6 力量を高めること | |

図IV



【考 察】

保育士が社会人として特に身につけるよう期待されることとして、保育所（園）長・主任保育士は、一番目に「2 責任感をもつこと」（19%）、二番目に「7 思いやりの心を常にもつこと」（15%）、三番目に「9 報告、連絡、相談を忘れないこと」（14%）を上げ、次に「8 保育所（園）の一員である自覚をもつこと」（11%）、「5 子どもの手本になること」（10%）、「1 時間を守ること」（10%）、「3 信用を失わないこと」（9%）、「6 力量を高めること」（8%）と続いている。

保育科学生全体では、一番目に「2 責任感をもつこと」（18%）、二番目に「9 報告、連絡、相談をすること」（15%）、「5 子どもの手本になること」（15%）、「7 思いやりの心を常にもつこと」（15%）、次に「3 信用を失わないこと」（12%）、「1 時間を守ること」（9%）を上げ、数値、順番には少々差はあるが、保育科1、2年生共に身に付けることとして上げている。また、保育所（園）長・主任保育士は、「6 力量を高めること」（8%）も期待しているが、保育科学生全体は1%と少ない。「10 保護者との出会い、研修の機会等を活用すること」は保育科全体が7%（1年生4%、2年生7%）であるが、保育所（園）長・主任保育士は3%に過ぎない。保育所（園）の信頼、信用は、「責

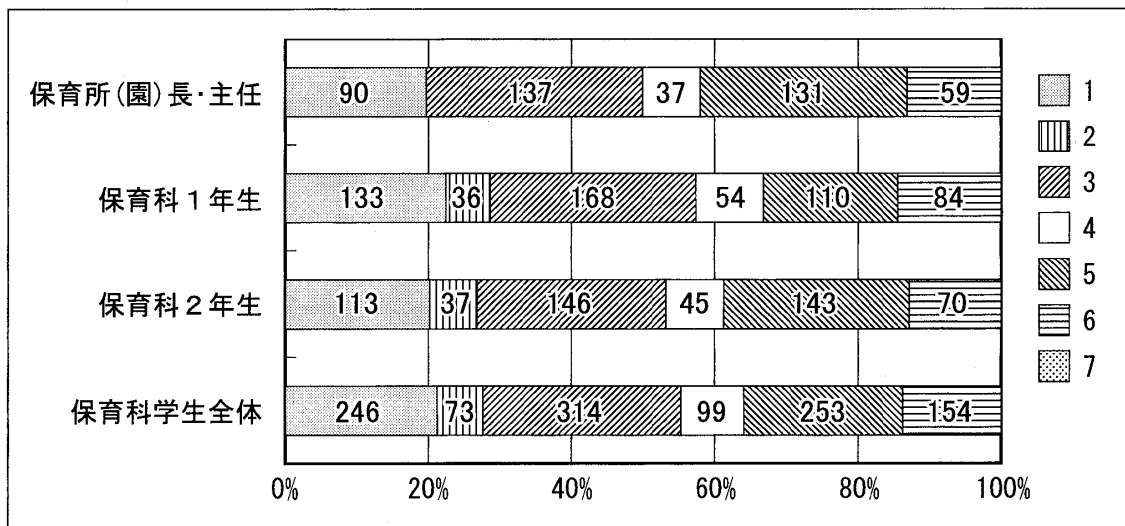
任ある保育」にかかっていることを保育科学生にも自覚させることが大事であると考える。

その他については、保育所（園）長・主任保育士から3名（0.3%）が「保育士としての責任感をもてば、他のことはついてくる。」が上げられた。

(5) 豊かな人間性に関する内容として、特に保育士に求められる資質能力を次の中から3つ選んでください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 人間尊重・人権尊重の精神 | 5 感動する豊かな感性 |
| 2 男女平等の精神 | 6 正義感や公正さを重んじる心 |
| 3 思いやりの心 | 7 その他 |
| 4 ボランティア精神 | |

図V



【考 察】

豊かな人間性に関する内容として、特に保育士に求められる資質能力については、保育所（園）長・主任保育士は、一番目に「3 思いやりの心」（30%）、二番目に「5 感動する豊かな感性」（29%）、三番目に「1 人間尊重・人権尊重の精神」（20%）を上げている。

保育科学生全体でも、同じく、一番目に「3 思いやりの心」（27%）、二番目に「5 感動する豊かな感性」（22%）、三番目は割合としては同じであるが（人数としては7人少ない）「1 人間尊重・人権尊重の精神」（22%）である。保育科2年生は、保育所（園）長・主任保育士と同じ順番で、一番目「3 思いやりの心」146人（26%）、二番目に（人数で3人少ない）「5 感動する豊かな感性」143人（26%）、三番目には「1 人間尊重・人権尊重の精神」（20%）である。保育科1年生は、一番目は同じく「3 思いやりの心」（29%）であるが、二番目は「1 人間尊重・人権尊重の精神」（23%）、三番目が「5 感動する豊かな感性」（19%）で、他と順番が入れ替わっている。

全体的にみると、「3 思いやりの心」、「5 感動する豊かな感性」、「1 人間尊重・人

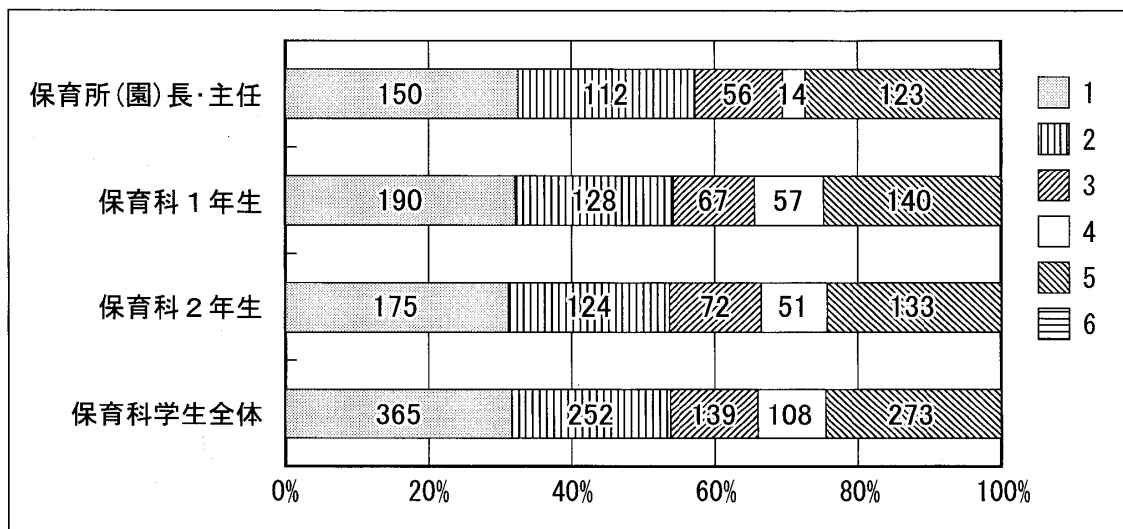
権尊重の精神」が保育士に求められてる資質能力として共通している。

その他には、保育所（園）長・主任保育士の2名（0,4%）が、「人としての器の大きさ」「平均した社会常識」を上げている。

(6) 保育士としての職務遂行に必要な資質能力を次の中から3つ選んでください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 子どもの成長・発達に関すること | 4 保育の役割について理解すること |
| 2 保育理念に関すること | 5 保育所保育指針に関すること |
| 3 保育の理論に関すること | 6 その他 |

図VI



【考 察】

保育士としての職務遂行に必要な資質能力として、保育所（園）長・主任保育士は、一番目に「1 子どもの成長・発達に関すること」(33%)、二番目に「5 保育所保育指針に関すること」(27%) 三番目に「2 保育理念に関すること」(25%)を上げている。保育所（園）長・主任保育士は、子どもの養護と教育の在り方に関しては、まず、在園する子どもの身体、言葉、生活技能等のそれぞれの発達の筋道や段階についての知識、理解を保育士に期待するのは当然であると理解できる。

保育科学生全体でも同じく、一番目「1 子どもの成長発達に関すること」(32%)、二番目「5 保育所保育指針に関すること」(24%)、三番目に「2 保育理念に関すること」(22%)を上げている。保育科1, 2年生についても、同じ順番、同じ割合で上げている。

保育所（園）長・主任保育士、保育科学生全体共に、「5 保育所保育指針に関すること」を二番目に上げていることは、子どもの教育の在り方の基本であり、学生が内容に精通するよう、なお一層、重視して、授業の中で、指導していくことが大切である。

学生に、「保育所保育指針」への意識が高いことは、喜ばしいことである。

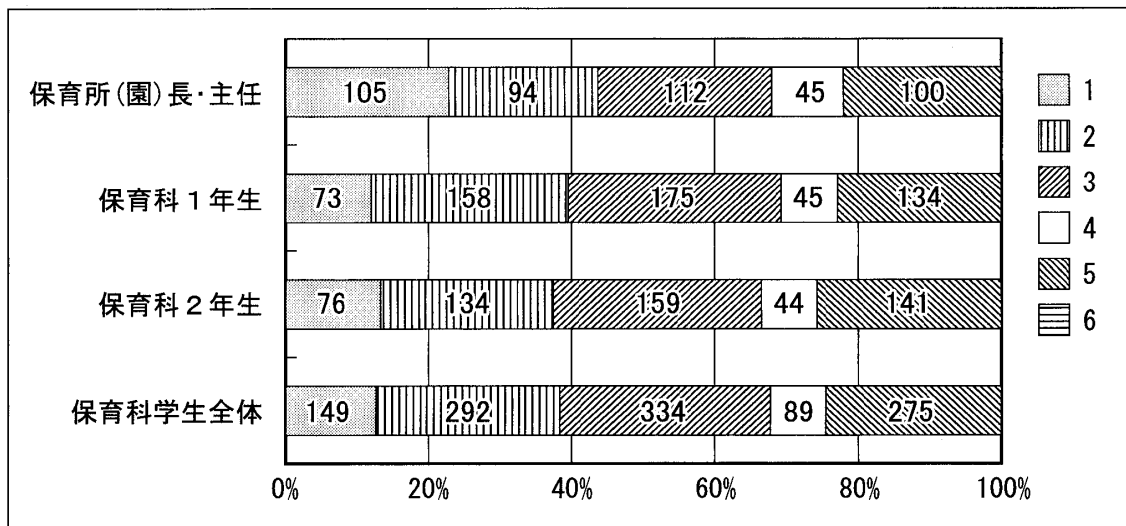
その他では、保育所（園）長・主任保育士1人（0.2%）が、「個々に異なる真の姿や個性

を見抜くことのできる力」を上げ、保育科1年生3名(0.5%)が、「子ども個人の家庭への理解」「家庭環境」「家族関係」を上げている。

(7) 保育士の職務上で大切な保育に関する愛着、誇り、一体感の中で求められる資質能力を次の中から3つ選んでください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 保育に関する情熱・使命感 | 4 保育の職務に対する生きがい |
| 2 子どもに関する責任感や興味・関心 | 5 豊かな包容力のある人間性 |
| 3 子どもに対する愛情 | 6 その他 |

図VII



【考察】

保育に関する愛着、誇り、一体感に求められる資質能力については、保育所(園)長・主任保育士は、一番目に「3 子どもに対する愛情」(31%)、二番目に「1 保育に関する情熱・使命感」(23%)、三番目に「5 豊かな包容力のある人間性」(22%)を上げている。保育所(園)に対する保護者の評価は、保育士の「子どもへの愛情」や「保育への情熱」であると考えれば、納得できる結果である。

保育科学生全体では、一番目に「3 子どもに対する愛情」(29%)、二番目に「2 子どもに関する責任感や興味・関心」(26%)、三番目に「5 豊かな包容力のある人間性」(24%)を上げ、保育所(園)長・主任保育士が二番目に上げている「1 保育に関する情熱・使命感」は、四番目で13%である。保育科学生も「子どもに対する愛情」を一番目に考えていることは、極めて好ましいとらえ方であると考えられる。

保育所(園)長・主任保育士、保育科1, 2年生共に、一番目には「3 子どもに対する愛情」を上げており、保育の基盤として「子どもに対する愛情」が大切であると考えられる。

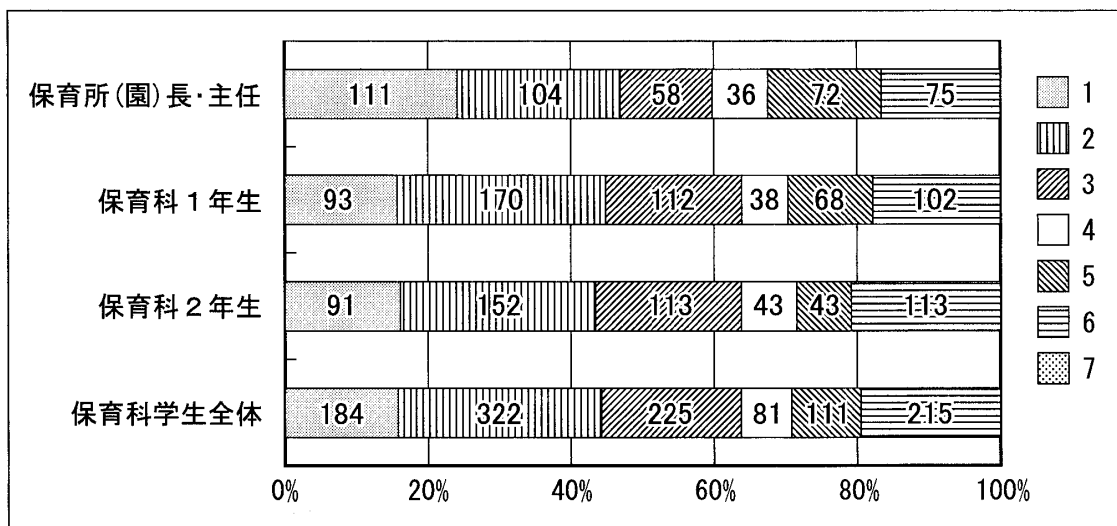
このことは、宮崎県教育委員会策定の「教職員人材育成プラン」の求める教師像の第一にも上げられている。

その他は、保育科2年生1名(0.1%)が、「子どもとの共感」を上げている。

(8) 保育士の職務上で大切な保育に関する養護、教育等に関する知識及び技能の中で、保育士に求められる資質能力を次の中から3つ選んでください。

- 1 保育の意義や保育の役割に関する正確な知識
- 2 子どもの個性を伸ばす能力
- 3 子どもを思いやり感情移入できること
- 4 カウンセリング・マインド
- 5 困難な事態を処理できる能力
- 6 地域・家庭との円満な関係を構築できる能力
- 7 その他

図VIII



【考察】

保育に関する養護、教育等に関する知識及び技能の中で、保育士に求められる資質能力として、保育所(園)長、主任保育士は一番目に「1 保育の意義や保育の役割に関する正確な知識」(24%)、二番目に「2 子どもの個性を伸ばす能力」(23%)、三番目に「6 地域・家庭との円満な関係を構築できる能力」75名(16%)、小差で「5 困難な事態を処理できる能力」72名(16%)を上げている。「4 カウンセリング・マインド」は8%である。

保育科学生全体では、一番目に「2 子ども個性を伸ばす能力」(37%)、二番目に「3 子どもを思いやり感情移入できること」(20%)、三番目に「6 地域・家庭との円満な関係を構築できる能力」(19%)である。

保育所(園)長・主任保育士が一番目に上げている「1 保育の意義や保育の役割に関する

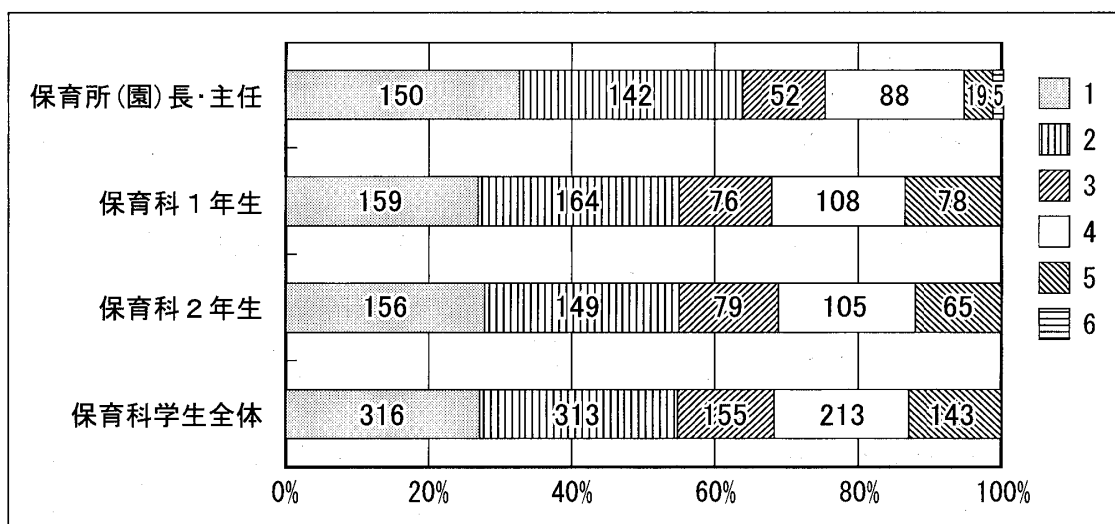
る正確な知識」については、保育科学生全体は四番目（17%）に上げている。この項目では、保育所（園）長・主任保育士と保育科学生では、見解が違っているが、保育士たる者が「保育とは・・・」ということについて、正しく理解することは極めて重要なことであるので、日常の授業でもきちんと指導していくことが望まれる。

その他については、保育科1年生2名（0.3%）が「保育の技術」を上げている。1年次に学習している授業の内容によって、回答に影響があると見られるが、真剣に調査に回答した結果でもある。

(9) 保育実習生に求められる実践的指導力の内容を3つ選んでください。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 保育内容に関すること | 4 保健衛生に関すること |
| 2 基本的習慣に関すること | 5 行事等に関すること |
| 3 クラス経営に関すること | 6 その他 |

図IX



【考 察】

保育実習生に求められる実践的指導力の内容として、保育所（園）長・主任保育士が一番目に「1 保育内容に関すること」（33%）、二番目に「2 基本的習慣に関すること」（31%）、三番目に「4 保健衛生に関すること」（19%）を上げている。

保育科学生全体は保育所（園）長・主任保育士と同じく、一番目に「1 保育内容に関すること」（28%）、二番目に「2 基本的習慣に関すること」（27%）、三番目に「4 保健衛生に関すること」（19%）を上げている。

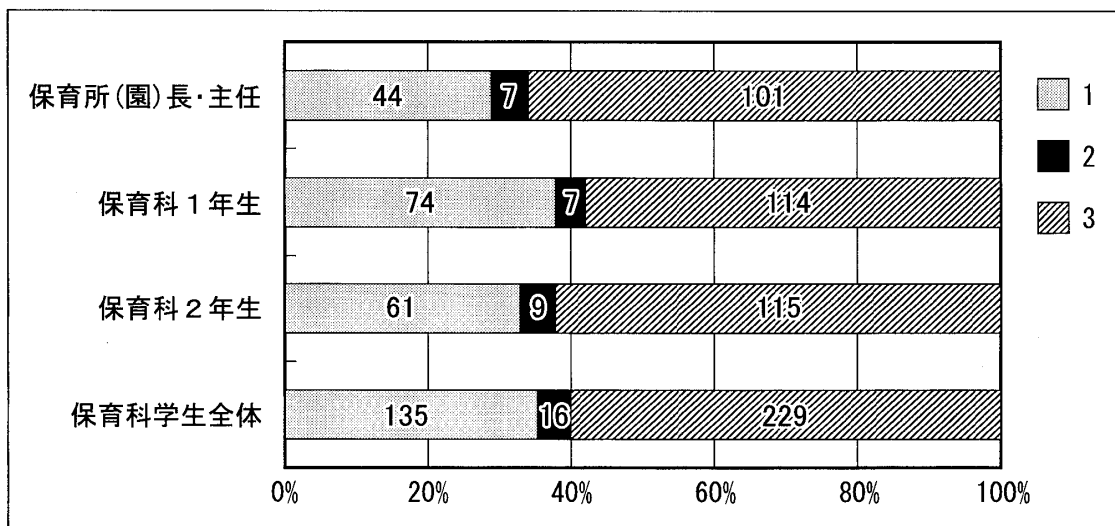
その他については、保育所（園）長・主任保育士の5名（1%）から、「子どもの成長・発達に関すること」「保育士の業務の自覚」「社会の常識」「礼儀作法」が上げられた。その他に、「保育士の業務の自覚」の記述があったことは、先に述べたように、保育士として特に身につけるよう期待されていることとして、一番目に「責任感をもつこと」が上がったこと

でもうなづける。また、保育内容に精通していることは、保育士の力量としては、極めて大事なことであるので、「保育所保育指針」は授業の中で、機会ある毎に取り上げていくことが望まれる。「社会の常識」「礼儀作法」については、実習生といえども、保護者への対応が多く、社会常識に乏しい状況もあり、本学が、建学の精神に「礼節と勤労」を掲げ、「人間の研究」の授業を重視していることは今後も大切であるとする。

(10) 保育士の初任者として、特に求められる資質能力を、次の観点の中から1つ選びなさい。

- 1 人間性重視の観点
- 2 専門性重視の観点
- 3 両方とも同じ位

図X



【考察】

保育士の初任者として特に求められる資質能力の観点として、保育所(園)長・主任保育士は、一番目に「3 両方とも同じ位」(66%)、二番目に「1 人間性重視の観点」(29%)、三番目に「2 専門性重視の観点」(5%)を上げている。

保育科学生全体も、保育所(園)長・主任保育士と同様に、一番目に「3 両方とも同じ位」(60%)、二番目に「1 人間性重視の観点」(36%)、三番目に「2 専門性重視の観点」(4%)を上げている。保育科の1、2年生についても同様である。

保育科学生には、日常の授業を通して専門性の力量を身に付けるために、ピアノやコミュニケーション能力、表現力をつけるよう、常に、自己研鑽に努めることが大事であることを強調していく必要がある。

(11) 本学の学生の実習についてのご意見やご感想を自由にお書き下さい。

- ピアノ等の実技面において、個人差がある。
- 面接や採用試験などにおいて、レベルの低下が散見される。
- 清掃の仕方、家事一般の常識、社会常識に欠ける傾向がある。
- 保育の専門性も大切であるが、保育士の人間性はそのまま子どもに投影されるので、建学の精神である「礼節と勤労」を充実して、今後も、更に、人としての基本姿勢の確立を願いたい。
- 実習日誌の書き方、保育指導案の書き方等の事前指導の更なる充実を願いたい。

これらの指摘については、今後の授業の中でも配慮していくことが望まれる。

3 まとめ

保育士（園）長の立場と直接保育に携わる主任保育士の立場、及び保育士を目指している保育科学生への調査結果を考察して、保育現場が求める資質能力を次表にまとめた。

保育士に求められる資質能力	
保育士に求められる資質能力	①子どもの思いや願いを的確にとらえる洞察力 ②子どもへの愛情 ③保育士としての使命感 ④子どもの成長・発達に関する理解
保育現場の実践的指導に期待される力量	①保育内容に関すること ②基本的な生活習慣に関すること ③保健衛生に関すること ④クラス経営に関すること
保育士として必要な生きる力	①自分の行動への責任感 ②自主的に行動できる力 ③豊かな創造力 ④何でも挑戦する情熱
保育士が社会人として特に身につけるよう期待されること	①責任感をもつこと ②思いやりの心をもつこと ③報告、連絡、相談を忘れないこと ④保育所（園）の一員である自覚をもつこと ⑤子どもの手本になること
豊かな人間性に関する内容として特に求められる資質能力	①思いやりの心 ②感動する豊かな感性 ③人間尊重・人権尊重の精神

保育士としての職務遂行に必要な資質能力	①子どもの成長・発達に関すること ②「保育所保育指針」に関すること ③保育の理論に関すること
保育に関する愛着、誇り、一体感の中で求められる資質能力	①子どもに対する愛情 ②保育に対する情熱・使命感 ③豊かで包容力のある人間性 ④子どもに関する責任感や興味・関心
保育に関する養護、教育等の知識及び技能の中で求められる資質能力	①保育の意義や保育の役割に関する正確な知識 ②子どもの個性を伸ばす能力 ③子どもを思いやり感情移入できる能力 ④地域・家庭との円滑な関係を構築できる能力 ⑤困難な事態を処理できる能力
保育実習生に求められる実践的指導力の内容	①保育内容に関すること ②基本的な生活習慣に関すること ③保健衛生に関すること
保育士の初任者に求められる資質能力の観点	人間性重視の観点、専門性重視の観点の両方が共に求められるが、中でも、人間性重視の観点は大切である。

次に、今回の「保育所保育指針」の改訂案の概要について記述しておく。

- (1) 保育所における保育士は、倫理観に裏付けられた専門的な知識、技術及び適切な判断力をもって、子どもを保育すべきであると強調されている。
- (2) 保育士自らの保育実践を振り返り、自己評価を通して専門性の向上や自分の保育実践の改善に努めなければならないとされている。
- (3) 保育士の資質能力の向上に関する基本的事項として
 - ① 子どもの最善の利益を考慮して人権に配慮した保育を行い、保育士としての職務及び責任の理解と自覚をもつこと。
 - ② 保育実践を通して、保育の専門知識及び技術を高め、保育内容にも精通すること。
 - ③ 保育士と子ども、保育士と保護者との信頼関係の醸成に努め、自己研鑽に励むこと。

今回の「保育所保育指針」の改訂案の概要及び保育所（園）長・主任保育士及び保育科学生への調査結果から、結論として、保育士に求められる資質能力を次のようにまとめたい。

- 子どもの生活を総合的にコーディネートする力
- 子どもの育ちを、五つの観点「健康 人間関係 環境 言葉 表現」等から観察する力
- 子どもの心にもっと踏み込み、コミュニケーションをとる力
 - 子どもと話す力 子どもの訴えを聴く力
 - 子どもの悩みを考える力 子どもたちの意見をまとめる力
 - 保育士の思いや願いを伝える力 毎日の保育を記録する力等

求められる資質能力の育成のためには、特に、本調査の結果を基に、保育科の2年間を見通した各分野の指導方法や学生個人への対応の在り方を改善する必要がある。即ち、従来の一方向的な講義型の授業から、指導過程において資質能力を育成できるように指導方法を改善するとともに、育成の視点から教材を開発して活用することが必要である。また、短大全体、学科の行事、保育実習事前指導の在り方、ガイダンスアワー等、全般を見直すとともに、日常の生活の場、実践の場である学生の家庭生活における家事一般、社会常識等の指導の充実のため保護者会等における家庭との連携を密にしていくことが肝要である。

4 今後の課題

- (1) 本調査の結果を基に、保育科の2か年間を見通した各分野の指導方法の改善
- (2) 保育士として求められている資質能力の育成を目指した教材の開発
- (3) 学生個人への対応の在り方の工夫改善（本学のFD活動の充実）
- (4) 短大全体、保育科の行事等の工夫改善
- (5) 保育所（園）及び学生の保護者との緊密な連携

〈引用文献〉

- | | | |
|------------------|---------|------------------|
| 宮崎女子短期大学研究紀要第31号 | 2005年3月 | |
| 中央教育審議会答申 | 2002年2月 | |
| 教職員人材育成プラン | 2007年3月 | 宮崎県教育委員会 |
| 改訂 保育所保育指針全文の読み方 | 2004年5月 | 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 |

謝辞

本調査実施においては、ご多用の中、書面による質問調査にご協力いただきました本県内の公立及び私立の保育所（園）長・主任保育士の各位、本学保育科1年生、2年生の学生に心から感謝申し上げます。